

第 14 回 ふじみ衛生組合安全衛生専門委員会 会議事録（要旨）

- 1 開催日時 平成 28 年 10 月 6 日（木）19 時 00 分～20 時 30 分
- 2 開催場所 クリーンプラザふじみ 3 階研修ホール
- 3 委員出欠 出席 12 人
出席委員 藤吉秀昭（委員長、施設部会長）、角田透（副委員長、健康部会長）、
井上稔、岩澤聡子、大野憲一、柏原公毅、小林義明、嶋田一夫、
菜畑剛一、本田理、牧野隆男、増田雅則
※正副委員長を除き、50 音順
- 4 出席者 事務局 荻原正樹、宮崎治、深沢典充、小垣外孝、
今村好一、岩崎誠、大堀和彦、中村和正
エコサービスふじみ株式会社 望月博文
- 5 傍聴者 1 名
- 6 第 14 回 ふじみ衛生組合安全衛生専門委員会 次第
 - 1 開会
 - 2 報告事項
 - (1) 第13回 ふじみ衛生組合安全衛生専門委員会会議事録（要旨）
 - (2) 平成28年度上半期ごみ処理実績について
 - (3) 平成28年度上半期環境測定結果について
 - (4) クリーンプラザふじみの 2 号炉の稼働停止について
 - (5) 処理施設緊急時及び要望等対応マニュアルの運用状況について
 - (6) 日本産業衛生学会における報告について
 - (7) 小金井市の可燃ごみ処理支援について
 - 3 その他
 - (1) 次回日程
 - 4 閉会

【資料 1】 第13回 ふじみ衛生組合安全衛生専門委員会会議事録（要旨）

【資料 2】 平成28年度上半期ごみ処理実績

【資料 3】 平成28年度上半期環境測定結果

【資料 4】 クリーンプラザふじみ 2 号炉の稼働停止について

【資料 5】 日本産業衛生学会における報告について

【資料 6-1】 「小金井市の可燃ごみ処理支援について（お願い）」（写）

【資料 6-2】 小金井市の可燃ごみ処理支援関連資料一式

第14回ふじみ衛生組合安全衛生専門委員会

－19：00開会－

事務局 : 定刻となりましたので、これより第14回ふじみ衛生組合安全衛生専門委員会を開会します。

皆様にはお忙しい中、ご出席をいただきまして、ありがとうございます。

(資料確認)

それでは、ここからは委員長に会議進行をお願いいたします。

委員長 : 皆さん、こんばんは。前回、失礼いたしましたので、久しぶりに来た感じがしております。

今日は実は7月20日にまた水銀が出たということで、その議論が今の大きな課題としてあります。

それでは、今日の用意された議題に従っていきたいと思います。1番目は議事録ですが、事務局から何かありますか。

事務局 : 特にありません。

委員長 : 議事録は皆さんの同意をいただいているということで、この場でまた追加で異論がなければ認めていただいて、公開の手続をとりたいと思いますがよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

それでは、続きまして環境測定のごみ処理実績の説明からお願いいたします。

事務局 : それでは私から平成28年度上半期のごみ処理実績について説明させていただきます。

資料の20ページをお願いします。まず、平成28年度4月から8月の集計で、クリーンプラザふじみのごみ処理実績です。可燃ごみの搬入実績ですが、平成28年度は、三鷹市が1万2,055.83トン、調布市が1万4,159.89トン、リサイクルセンターの可燃性残さが3,246.06トン、武蔵野市相互支援によるものが393.12トン、合計で2万9,854.90トンとなっています。前年度と対比しますと、合計で305.34トン増となっています。

増の主な要因は、調布市が134.2トンとなっていますが、これは事業系の持ち込みごみが浸透してきたことにより、増となっているものと考えています。また武蔵野市の相互支援が平成27年度は300トンを2回に分けて搬入で、これが1回分で295.29トンとなっていますが、平成28年度は、200トンを3回に分けて搬入で、今、2回分がきております。その分で100トン弱の差がございます。

続いて下の表の搬出実績と電気量です。平成28年度は、焼却灰が2,521.15トン。飛灰が681.85トン、鉄分が74.13トン、焼却量が2万

7,812.56トン、発電量が1万4,335.01メガワットアワー、売電量が1万238.28メガワットアワーとなっています。前年度と対比しますと、焼却量が2,405.94トン減で、それに伴い、焼却灰、飛灰、鉄分、発電量、売電量全てが減となっている状況でございます。

続きまして、21ページ、リサイクルセンターの4月から8月のごみ処理実績でございます。三鷹市の搬入実績が、平成28年度は3,874.98トンの77.07トン減で、微減となっています。調布市は、平成28年度が3,741.35トン、前年度比が4.75トン増で横ばい状況です。両市合計しますと、平成28年度が7,616.33トン、前年度比で72.32トンの微減となっています。主には不燃ごみで平成28年度が前年度比で136トン、6%減というのが主なところですよ。

続きまして、22ページをお願いします。リサイクルセンターの4月から8月の搬出のごみ処理実績でございます。上の表が資源物の有償・無償分。下の表が逆有償とクリーンプラザふじみによる熱回収の分となっております。合計が平成28年度は7,283.1トンで、前年度比の134.49トンの減でございます。これにつきましては、上の表の右から3番目、容リ・プラスチックにつきまして、平成27年度比が約115トンの減となっています。これにつきましては、年度当初に選別の制度を厳しくしたということから、搬出するプラスチックが減となり、その分、下の表の焼却熱回収のクリーンプラザふじみの量が大体70トン弱増えています。

以上で上半期のごみ処理実績のご説明は終わります。

委員長 : ありがとうございます。

ただいまの報告について、質問、コメントがありましたらお願いします。

いかがでしょうか。前回も聞いた気がするので恐縮ですが、最初の可燃ごみ搬入実績で平成28年度は少し増えていると。ところが処理実績は減っている。したがって売電量、発電量も減るというその関係が理解できないため、もう1回説明してもらえますか。

事務局 : 一番大きな理由として、その時のごみピットの残量の調整ということがございます。必ずしもその月に入ったものをそのまま全量燃やしているわけではなく、ごみピットが空いている時には溜めて、そして燃やすということがあります。一番大きな理由としては、6月の全炉停止が、今年は昨年と比べると若干長かったということもございます。また、7月は、先ほど委員長からありましたとおり、水銀が出まして、急遽止めざるを得なかったという事情もありまして、昨年度と比べますと搬入量は増えておりますが、焼却量が減っている状況でございます。

委員長 : これはこの時期の報告だから、4月～8月の合計の比較ということですね。

事務局 : そのとおりです。

委員長 : この間にたくさんピットに溜め込んでしまえば焼却量は減るというこ

とですね。

事務局 : そのとおりです。

委員長 : そういう説明ですね。分かりました。

ほかにございますか。なければ次にいきたいと思います。次は排ガス測定等の環境測定結果の報告です。お願いいたします。

事務局 : それではご説明いたします。

24ページをお願いいたします。

平成28年度環境測定結果でございます。1号炉、2号炉とございまして、それぞれ赤い線が運転の実績になっております。5月、6月、7月にかけて、それぞれ年次点検で炉を停止している部分がございます。2号炉の5月18日から19日までですが、不適物除去のため、2日間、2号炉停止という吹き出しがございます。これは、鉄のハンガーが灰の押し出し部分に絡まって、1回炉を止めまして、それを除去する作業をしたものでございます。それから7月20日から27日、今、お話がありました水銀の関係です。2号炉を停止しましたが、それは後ほど事務局から説明がございます。

続いてその下の表ですが、排ガス測定のところでございます。

まず、ばいじんは、 $0.001 \text{ g/m}^3 \text{ N}$ 未満で、いおう酸化物は、6月の1号炉で2.7ppmが最大でございます。窒素酸化物は、8月の2号炉の47ppmが最大でございます。塩化水素は、8月の1号炉の2.1ppmが最大でございます。ダイオキシン類は、7月の1号炉、 $0.0014 \text{ ng-TEQ/m}^3 \text{ N}$ 、こちらが最大の数値でして、2号炉と比べて多い数字が出ております。水銀は、4月の1号炉が $0.006 \text{ mg/m}^3 \text{ N}$ が最大でございます。一酸化炭素につきましては、8月の1号炉の4ppmが最大でございます。

それから排ガス中の鉛とカドミウム、亜鉛は、 $0.004 \text{ mg/m}^3 \text{ N}$ 未満で、いずれにいたしましても自主規制値、または基準値を下回っている数値でございます。

続きまして、騒音、振動、臭気指数、排水の測定でございます。

まず、騒音は、4月に計測いたしまして、ふじみ衛生組合の東側の56デシベルが最大で、振動は、午前8時から午後8時まで、それから午後8時から午前8時とも南側の36デシベルという数字が最大です。それから臭気指数は、10未満です。排水は、6月に測定しましたが、水質基準以下です。

それから大気汚染の測定で、こちらの表の7月に分析中とありますが、実際は測定場所の工事の関係があり、8月にずれ込んでおります。別紙をご覧ください。クリーンプラザふじみ周辺大気の測定でございます。別紙ですが、こちらは8月3日から9日まで、それぞれ調布市、三鷹市の1か所ずつで測定をしたものでございます。それぞれ数字がありますが、全て基準値以下でございます。三鷹市立南浦小学校で測定した水銀につきまして、 $0.0044 \mu \text{ g Hg/m}^3$ で稼働前と比べても数値が若干多くなってお

ります。それからしいの木公園での測定では、ダイオキシン類は0.034pg-TEQ/m³Nで稼働前と比べても若干、数値が大きいのですが、基準値以下でございます。

また24ページに戻ります。こちらは放射能に関する測定で、焼却灰、飛灰、排ガス、排水です。4月から8月までそれぞれ数値がありますが、放射能の基準値を大幅に下回っています。同様にその下の空間放射線量率ですが、こちらでも高さ5センチと高さ1メートルのところで計測しており、いずれも0.05から0.08μSv/hの間で、これも基準値を下回っています。全体的に昨年度同月に比べまして、ほぼ多くの項目で下回っているという結果になったものでございます。

委員長

: ありがとうございます。

ただいま報告がありました。質問あるいはコメントがありましたらお願いいたします。いかがでしょうか。どうぞ。L委員。

L委員

: 細かいことですが、一番上のスケジュールのところで、これが右の吹き出しと同じことをここで書かれているのですか。5月の下から5行目あたりに、それは左端にあるハンガーによる2号炉停止のことをここで書くつもりで書けなかったのを左に書いたということでしょうか。

事務局

: 事務局から申し上げます。L委員がご指摘のとおりです。大変失礼いたしました。

L委員

: 分かりました。

委員長

: この吹き出しに書いてあるのが言いたいことだと。2日間2号炉が停止したという理解でいいですか。不適物除去のためですね。

事務局

: そのとおりでございまして、余分な記述がございましたので、この中で訂正いただいたということでご了解いただければと思います。

委員長

: この不適物除去というのはどういうトラブルが起きたのですか。

事務局

: 灰出し、灰押装置の出口のところに金属などの不適物をきっかけとしまして、針金ハンガーや番線など、そういった金属くずが固まって、だんだんここに溜まっていってしまうのです。それによって灰が外に出なくなってしまう、それで焼却炉を止めざるを得なくなったという内容でございまして。

委員長

: ボトムアッシュの灰押ですね。そちらのほうに詰まったと。

事務局

: はい。

委員長

: これは初めてですか、こういうことは。

事務局

: 点検をしながら絡まった金属は取り除きながらやっております。焼却炉を止めることに至ったのは初めてです。

委員長

: ほかにございますか。どうぞ。

K委員

: そういう現象は2号炉だけで、1号炉はそういう現象が起きないということでしょうか。

事務局

: これは1号炉も2号炉も同様ですが、今回たまたま2号炉が詰まってしまったということです。以上です。

委員長 : 大体、針金、ハンガー針金とか、巻きつくようなものがあると、いつの間にか成長していくのですね。だから点検のときに、それが見つかれば取って、あとはまたきれいになるのでしょうかけれども。普通は灰と一緒に出ていくのですが出ていかなくて、大きくなっていくと。それは1号炉と2号炉で微妙に違いがありますから、起きなかった1号炉で全然起きないかという、起きないという保証は何もありません。そういうごみ焼却炉に針金とか金属性のものが結構入ってきますので、点検のときにしっかり清掃等をしていって、止めないようにしなければいけないということは当然あります。

今回初めてだというので、少しは途中の点検で溜まっている状況があったら、早目に除去する作業をやられると思いますが、あまりよそでは聞かないトラブルですね。もっと大きな長尺のゴルフのクラブみたいなものがそのまま残ったり、物干しざおみみたいなものが入ってきたりすると、この中に絡んで出口をふさいでしまうことはありますが。そういう意味で今まで全然なかったというのは、非常にいい維持管理をされていたと思います。こういうことが起きたということで、なお一層、注意して維持管理してほしいということです。

L 委員 : 前回もこの話をお聞きしたのですが、詰まったものというのは、要するにクリーニング屋に出すときにビニールの張ったあれが何本ぐらいあったのですか。大量。1本や2本じゃなく、どんなものでしょうか。

事務局 : もう1、2本というレベルではなくて、成長していきますので、ほんとうにもう大量なものということです。100本とかを数えるというレベルではない感じです。

L 委員 : そうすると、事業系のごみですね、これは。普通の家庭からは出ないですね、100本も。出ますか。可能性はあるか。

委員長 : 一気に出たかどうかは分かりません。いろいろ出たのがそこで結局ずっと蓄積していくということはあるから。

L 委員 : 何日もかかって少しずつ成長していくということですか。

委員長 : これはストーカタイプじゃなくて、流動床というタイプがもう1つ空気を入れて砂を回すようなタイプの焼却炉がありますが、そこは出口が非常に小さくなって、必ずそこにハンガーのくるまったのが丸くなって、カラスの巣みたいになって、砂の排出を阻害して止まる。だから流動床は弱いという話になっているのですが、ストーカはそれが起きないというので強いと言っているのが、これが起きてしまったということですね。

では、ほかの点でご質問、ご意見ございませんか。特に公害防止排ガスの測定値ですとか、騒音、振動、あるいは悪臭、排水等問題ないということと言われるが、何となくこういう敷地境界とかで測る臭気というのは大丈夫だけれども、いつの間にか何か敷地の周りが臭ってくるのは時間が経つてくるとよくあって、そうすると何となくイメージが下がっ

てくる。これだけグリーンも植えてあるし、きれいにしてありますから、やっぱり搬入車の出入り口とか汚水がこぼれるようなところとか、こまめに水洗いとかしていくと、施設全体のそういう臭気の問題が大分解決されるということがありますので、なお一層、維持管理に気をつけていただきたいと思います。

余談になりますけれども、中国の焼却炉は今どんどん増えています、日本と違って、ごみ質が悪いのです。水分がすごく多いです。日本の40年代ぐらいのごみ質で、生ごみがやっぱり比率が多いのです。そうするとピットからすごい臭いが出てきます。この臭いをしっかり外に逃げないような対策をしておかないといけないのですが、わりとエアタイトな部屋のつくりになっていないからすぐ漏れてきます。そうすると見学に行ったときに臭うというのでやっぱりイメージが下がります。余談になりましたけれども。

そうしましたら、特に環境測定結果でご意見がなければ、順調に、適切に運営管理されているということで、承認いただき次にいきたいと思っています。

次がクリーンプラザふじみ2号炉の稼働停止についてです。事務局からお願いします。

事務局 : それではクリーンプラザふじみ2号炉の稼働停止について、資料4、26ページをご覧くださいと思います。

まず、経過でございます。7月20日(水)午後9時46分頃、2号炉の排ガス中の水銀濃度が急激に上昇しまして、自主規制値 $0.05 \text{ mg/m}^3 \text{ N}$ を上回る $0.20 \text{ mg/m}^3 \text{ N}$ となったものでございます。水銀濃度上昇時の対応につきましては、水銀濃度異常上昇時の対応操作基本手順がございました。これは皆さんに作成いただいた処理施設緊急時及び要望等対応マニュアルの6ページに記載されているものでございます。

その手順に従い、操作を行いました。下がらなかったため早急に稼働を停止し、立ち下げの操作を開始いたしました。

原因でございますが、当日は水曜日で、一般家庭から出るごみは、月・木・火・金で収集しておりますので、原則水曜日は入ってきません。従いまして、事業系ごみの可能性が高いのではないかと考えております。

ただ、現在まで原因をいろいろ究明してまいりましたが、今現在も特定はできていないというのが現状でございます。

続きまして、対応状況ですが、水銀を含む飛灰が付着したと考えられるバグフィルターの清掃を行うとともに、新たに消石灰を吹き込んでおります。また、地元協議会の正副会長にご報告するとともに、安全衛生専門委員会の委員長にもご報告をさせていただいたところでございます。

続きまして、再稼働までの経過でございますけれども、毎日トレンドを委員長に見ていただきまして、最終的には7月26日(火)の午後、委

員長からデータからは水銀の発生は収まったようなので、焼却炉の慎重な立ち上げに入ってもよいというご見解をいただきましたので、その日の地元協議会に報告を行い、再稼働への理解が得られたので翌7月27日（水）の午後にバーナーに着火いたしまして、28日（木）の午前からごみの投入を再開いたしました。

続きまして、再発防止策ですけれども、現在までもいろいろな再発防止策を講じてまいりましたが、さらに早急に啓発を行うということで、実際に三鷹市、調布市の広報等を通じて再発防止の啓発をさせていただき、今後も両市と連携をとりながら、新たな再発防止策について検討していきたいと考えております。

委員長 : 水銀問題の経緯が説明されました。ご質問、コメントありましたらお願いいたします。

E 委員 : 20日の停止問題は決めてきた手続に従って措置がきちっととられているという点では問題はないと思いますが、再発防止策についてさらに検討するということですのでけれども、ふじみ衛生組合の場合は分別までふじみの仕事なのかという問題。今、ふじみの広報は大きくてその問題だけ書いてあるから、見やすいです。調布市報のゴマ粒のような字の割合からいうと、あの中でどの程度市民に周知できるのかと僕は思っています。

あるいは環境課は分別の指導は一体どこが行政の中でやっているのかという問題を改めてどこがやっているのだろうと。もう少しそのところをやらないと、カラスの巣じゃないけれどもさっきの焼却不可能なものが投下されれば、水銀の場合は多くのものが投下されれば確実に出てくるという問題につながるわけです。大変であるけれども、1回言ったから済むという問題ではなくて、継続的に分別の徹底をやらないと、こういう問題はまた。会長になったり副会長になったり役どころで連絡もらって分かりましたと。それで私、委員長が点検して、多分、どのぐらいの有害物質だとか、バグフィルターの付着だとか除去して出ていた原因を取り除けば、今の焼却能力でいうとほかはもう問題ないのだから、また動かそうかというのは判断の基準にあるのかなと、それは僕は専門家ではないので知らないが、その辺は一体委員長の手元に確認されたということについては、僕は今言ったようにそう思っているのですけれども、どういうデータが例えばあって、それでいいとするのか。

それは今までももう問題ないから、僕は今のまま納得しているのですけれども、要は新たな再発防止策をもう1回、市全体で考えてもらいたい。さもないと、また続くのかなと思います。

これは要望ですけれども、2つ目の問題として、同程度の水準を持つ焼却炉のこういう問題の発生率みたいなことを比較検討して、市民に理解してもらうという問題もあるのではないかと。特別に調布が、例えばこのふじみ衛生組合が多いのかどうかという問題を知っておく必要が、解明しておく必要があることも思っています、そういうことも将来に

向けて、考えていただきたいと思います。これは要望です。

委員長

： 大変、的確で全体的なご意見をいただいたと思います。

言われるようにどう判断したのかというのは、確かにもう下がってきているのが基本的なことですが、まだ大部分の施設がこういう連続測定器を付けていないのです。これは付けていて良かったなとつくづく思ったのです。再開できないじゃないですか。あれだともう明らかに水銀が下がってきているから、ここまできたら多分もう出てしまったのだなという判断がつくのです。付けていないところはもう不確定なまま運転するしかないです。まだピットに残っているかもしれないですね。それなのに、もう大分たったからもう始めようかなという感じのことをやるわけです。

だから水銀の連続測定のモニターがあって本当に良かったなという感じですよ。

今般の水銀条約に関連して環境省もこの水銀の測定をするように言っていますけれども、連続測定と言っていない。年に2回測ればいいとか、ダイオキシンと同じような感じになっています。東京23区でこういう連続測定装置を入れて0.05 mg/m³ Nという基準をつくられて、周辺でそれを見習う都市が少しずつ増えているのですが、まだまだそんなに多くないのです。

それで更なる再発防止って一体何をやるんだと、私もちょっとどうしようかと。分別の部分はここの組合じゃなくて、三鷹、調布の担当があるはずで、そこが一緒になってこの問題に取り組まないとだめですよ。おっしゃるとおりだと思います。だからそういう両市にしっかりこの問題は大変ですよということを言って。

それから持ち込みごみのコントロール、制御はなかなか難しいというので、以前からずっと議論しているわけです。言えば、認識していないで出してしまったのではなくて分かっているからこっそり出したという人もいますから、そこが大変なところですよ。その辺を考えていきますと、ソフト面でもまだちょっとやらないといけないなど。

それからご存じのように、東京二十三区清掃一部事務組合の大きな焼却炉はもう出るものとして、ちょっと濃度が高くなっていったら、そのとき用にいろいろな対策が打てるような装置を付けています。だからそういうハード的な対応も1つあり得るということなので、ソフト、ハード面含めて、まだまだ検討しなければいけないという話を電話で申し上げたところでした。

何か事務局のほうで補足があれば。

事務局

： 今、ハードのお話がありました。JFEエンジニアリングでもハードの開発をしているところですので、その新しい情報について、今日は御報告をさせていただきたいと思います。

お手元にお配りします資料ですが、これはJ F Eエンジニアリング株式会社のホームページからとったものでございます。

まず、現在の水銀の測定方法ですが、この絵が2つございますけれども、上の方法で、煙突の出口ですね。煙突の中段の部分に水銀計がございまして、煙突の出口の濃度を測っております。煙突の出口の濃度が上がったときに警報が鳴り、活性炭を吹き込むという状況で、どうしても警報が鳴ってから活性炭を吹き込むまでの時間がかかなりかかっているというのが現状でございます。そこでJ F Eエンジニアリングでは、そうではなくてもっと早い段階で活性炭を吹き込めないかということで今、研究開発しております。それがこの下の方法でございまして、煙突の出口ではなくて、バグフィルターの手前、焼却炉を出たところに水銀計を設け、その濃度が上がればその瞬間に活性炭を大量に吹き込むという手法です。この手法の非常に難しいところは、文章中段にも書いてありますが、このバグフィルターの前の排ガスは、ほこりやちりがたくさん入っていて、すぐにそれが水銀分析計に付いてしまうので、せっかく水銀分析計を付けても、すぐにだめになってしまいます。今までなかなか開発が進んでいませんでした。そのほこりやちりを取ったらいいのではということで、水銀分析計の前にフィルターを付けてしまいますと、ほこりやちりは取れるのですが、一緒に水銀も取れてしまい、正しい水銀の値が測れないということで、その辺の研究開発が今まで進んでいませんでした。今現在、そのフィルターを付けても、水銀が測れる。そのフィルターの交換もある程度、長期間交換しなくても済むというような技術開発が、丁度されているところでございまして、こちらにもありますとおり、技術的には確立したと聞いております。あとはこれを営業レベルといいますか、実際に各施設に取り付けてどうなのかという段階にきていますと聞いていますので、この技術が私どもの施設にも入れられるというJ F Eエンジニアリングからお話がございましたら、それも選択肢の1つとして考えていかなければいけないと考えているところでございます。

委員長

： 少し補足しますと、活性炭の噴霧装置は、多分現状でも入っているのです。活性炭を噴霧するというのは。それはダイオキシンとか通常の汚染物がきたときに取るというぐらいの噴霧量です。これだけだとこのように大量に水銀が入ったときに対応ができない。除去しきれないのです。だから大量にきたとき用にもう1機、活性炭を大量に吹くような装置をその前に付けようという。でもそのときに、どんな時にこれを吹けばいいのかいつ止めればいいのかがよく分からないから、前の方に水銀濃度計を付けておこうというのです。その前段の水銀濃度計は妨害物が多くトラブルやすいから、今までも皆、付けたけれどもいつの間にか、エラーを出すので止めておこうと考えていました。

エラーを出して、マイナスのほうにエラーを出すとこれは吹かないわけです。水銀がきてないのに、何か上がったようなデータを出したら、必要のない活性炭をばんばん吹くことになるということで、なかなか使い物にならない。

後ろの方で測った値で制御するのも少し遅れますけれども、少し遅れるぐらいですから対応はとれると思いますけれども。これでだけ吹き始めた後が分からないです。取れてしまうから。新しく付けた装置で取ってしまうと、もう出なくなるでしょう。だから下がったと思っていてもこの入り口が本当はまだ高いかもしれないというのは分からないです。だからやっぱり前の方に付けておかないと、これでもう水銀の大量時に吹く装置を止めていいかどうか分からなくなってくるのです。そういう部分もあって新しい装置を付けて、水銀を測る装置を前の方に入れるとそれはある程度大量時でも取れますねということです。しかし、費用が高いのでこれもいろいろ考えなければいけない。

東京23区は湿式で行っているのだから、そこにキレートを吹いています。水銀を化学的にフィックスする薬剤をまいて、それで水銀を取ってしまうというのです。ですから23区一組の対応はもうそういうのを付けなければいけないというから、ある頻度で起きているなという感じの認識ですね。

ということで、こういうハードな面も事務局としてはそれなりに情報を集めて検討しているという報告です。

K委員 : よろしいですか。ちょっと教えていただきたいのですが、5項目ありますけれども、第1項目で、活性炭の量を増やしても、水銀濃度が下がらないという内容がございまして、第3番目で清掃を行い新たに消石灰を吹き込みましたら、何かここで落ち着いたようなことが考えられるのですが、活性炭と消石灰の関係というのはどういうものか教えていただきたい。

委員長 : 説明をお願いします。

〇〇氏 : 私は組合より運営委託を受けているJFEエンジニアリングの〇〇と申します。先ほど委員長から説明ありましたように、時間の経過とともに連続で水銀の値が下がってきますが、送風のみで、水銀は温度を上げていくと気化し、ろ過式集塵機にて、徐々に落ちてきます。活性炭吹き込み時に、消石灰をいっしょに吹きますと、消石灰と活性炭が混合して、ろ布の反応層が厚目形成され、単独に活性炭を吹き込みする以上に効果が得られます。本来、消石灰は酸性の有害ガスを中和する作用がありますが、単独で活性炭だけで吹いていますと活性炭は発火性があり、熱を持ってきます。発火防止として、単独で活性炭を吹くだけより消石灰も適宜混ぜて設備の安全も兼ねています。この一連の作業は清掃の一環と考えていただければよろしいかと思えます。

委員長 : 大分複雑な説明でますます分からなくなりますが。

簡単に言うと、バグフィルターのろ布についていた水銀まじりの飛灰を取って清掃したとすると新しく消石灰を吹いてあげないとろ過層ができないのです。ろ過機能ができないからしっかり正常な消石灰を入れて、ろ過層をつくって、ちゃんとバグフィルターの機能をもう1回再生させるという作業をやって、報告したということです。

K委員 : そうしますと、これはちょっと変な表現でございますけれども、そういう常にというわけではなくて、段階的に消石灰と活性炭とを併用してやるということは難しいのでしょうか。

委員長 : やっているのです。

K委員 : やっているのですか。

委員長 : それを超えて水銀が入ってきている。

K委員 : そうしますと気化した水銀を捕らえる装置、検知器というか、そういうのは難しいのでしょうか。結局、水銀は必ず気化して浮遊しますね。その浮遊物の発生した瞬間を捕らえるという装置はできないのでしょうか。これはちょっと難しいですか。

委員長 : 今、測定器で連続測定しているのはガス状のものをとっています。ガス側へ飛んできたのを測っています。ですから、そこはしっかり測れている。特にバグフィルターの後ろ側は測れています。ですからおっしゃるようなことは基本的にはもうやられていると。それを超えるものが入ってきたときに困っているということです。

K委員 : 分かりました。

委員長 : ほかにございますか。

L委員 : 活性炭が水銀を取るのに非常に効果的に弱いという話がありますけれども、技術開発を一生懸命やっただいただいているのですけれども、それにかわる、活性炭にかわるようなものは。結局、湿式法でないといけないのでしょうか。乾式法では活性炭以外にはないのですか。

委員長 : いろいろ研究されているのでしょうけれども、今のところは活性炭で乾式でというのが多いです。いろいろ、もっと乾式でも取れる薬剤がありますというのが出てくるかもしれませんが、きっと費用が高いのです。そういうのもありますので。

それからもう1つはこの飛灰は特別管理廃棄物ということで、これを埋めるときには、不溶化対策をしてから埋めなければいけないということになって、溶出試験をクリアしなければいけないというのがあります。

ですから水銀をたくさん含んだ飛灰が出たときは当然不溶化剤をたくさん入れて、最終処分場で悪影響しないように対策をとってから埋める必要がありますので、多分そうされていると思います。

事務局 : 私ども以前は埋立を行っていましたが、今現在は飛灰も含めまして全量、エコセメント化施設でエコセメントにしております。この水銀が出た日ですが、煙突からも出ましたけれども、ほとんどの部分はバグフィルターで取れて飛灰の方へ移行していると考えられましたので、

すぐにその日の飛灰につきまして、分析会社に持ち込み、分析してもらいました。おかげさまで基準値以下ということで、エコセメント化施設で受け入れをしていただいたということです。

ただ、その間数日ですが結果が出るまでエコセメント化施設については搬入を止めておりました。

委員長 : 忘れていました。エコセメントに持って行ってしまったね。

質問がなければこの問題、E委員が言われるようにハード、ソフト含めてもう少ししっかり考えましようということですね。それで特に市全体で分別とか排出減での徹底を呼びかけるような話をもっとしっかりやってくれということは、ぜひ組合から両市へ話を伝えていただいて、強化していただきたいということです。

次のテーマに行きたいと思います。B委員の発表の資料です。

B委員 : 私のほうから日本産業衛生学会で、こちらのふじみ衛生組合での取り組みの学会発表をさせていただきました。お手元の資料の28、29ページになります。

日本産業衛生学会というのは、大学の医学部の衛生学公衆衛生学講座の研究者、専門家と、また会社の産業医とか衛生管理者等の専門家が参加する学会で、年に1回の総会があり、今年の5月の総会で発表しました。

内容としましては、都市部ごみ焼却施設稼働前後の環境中水銀濃度の検討ということで、毎回事務局から報告されています環境測定の結果の特に水銀の項目につきまして、稼働前と稼働後の定点における周辺大気の水銀濃度を比較したものでございます。

あと、こちらの施設で特徴的な連続測定です。リアルタイムでのホームページ公開も紹介させていただきました。

結果としましては、煙突出口で連続測定は平成25年度の結果ですが4回停止があったことを報告し、周辺大気環境はいずれの季節においても大気中の水銀濃度の指針値を超えるものは観測点がなかったこと。季節ごとに平均値を出しました。観測点における平均濃度は特に差が出なかったということで、稼働前と稼働後の周辺大気環境は変化がなかったことを報告しています。

一方、連続測定で水銀が自主規制値を超えたことは、安全衛生専門委員会の対策も啓発活動等、報告させていただいております。

委員長 : ありがとうございます。大変立派な報告。これは学会の口頭発表ですか。

B委員 : これはポスターで発表にしました。

委員長 : 1つだけ教えてください。ペアt-テストで、平均値の差がないという判断をされているということですね、これは。

B委員 : 同じ時点の前後の比較ということで、ペアtという方法を使わせていただきました。

- 委員長 : この p 値がずっと出ていて、これは何かどういう見方をするのですか。
- B 委員 : これが 0.05 未満という数値の場合に統計学的な有意差があったというように判断するものになります。前後でプラスの方に行っていて、さらにペア t の p 値が 0.05 を下回るということになりますと、水銀が増えていたということの意味するのですが、そういった結果はいずれの検定でも起きていないということですので、このような結論にいたしました。
- 委員長 : そうすると、1 キロメートル以内で、n 値 12 で 0.06 というのがありますが。これは有意差があるのですか。
- B 委員 : 1 キロ以内のところの表 2 の下から 3 行目のところですが、12 の観測点が 1 キロ以内に入ってきてまして、そちらの稼働前の平均値が 3.3。対しまして、稼働後の平均値が 1.3 で、逆に減っていると。減っているのが 0.06 で、まあ 0.05 に近いのですが、これで差が出そうですけれども、これはいい方向ですね。環境が良くなったということを証明する方向になりますので。
- 委員長 : 明らかに良くなったという結果が出てきた。
- B 委員 : 数字の世界はそのようなことになります。
- 委員長 : ありがとうございます。なかなかいい解析だなと思います。
ほかに何か質問ありますか。ここの活動データをうまく解析していただいていると思うのですが。
そういうことで、また B 委員、同じような専門の力でいろいろと解析いただいて、学会とかでどしどし発表いただき、いいフィードバックをかけてもらえるといいと思いますので、よろしく願いいたします。
次のテーマに行きたいと思います。事務局から小金井市の問題です。よろしく願いします。
- 事務局 : それでは小金井市の可燃ごみ処理支援についてで、資料 6-1、30 ページ以降お聞きいただきたいと思います。よろしく願いいたします。
まず、6-1 です。これは 8 月 4 日に小金井市の西岡市長から小金井市の可燃ごみの処理についてふじみ衛生組合でお願いしたいと市長自らお見えになって管理者、副管理者に渡された資料でございます。
小金井市のごみの現状でございますが、皆さんもご存じのとおり、小金井市は二枚橋衛生組合で処理をしておりましたが、老朽化に伴って、平成 19 年の 3 月に炉を止めております。現在は周辺の自治体にお願いをしている状況でございます。今回、この依頼を、最終的に判断いただきますのは、地元協議会でございますので、この件は先日 8 月 22 日の地元協議会で報告をさせていただきましたが、10 月の地元協議会で結論をいただきたいと思っております。この専門委員会は、例えばもし受け入れるとすれば、どのような点に注意したらいいのか等のアドバイスをいただきたく、ご報告をするものでございます。
まず小金井市のごみの受け入れですが、31 ページを見ていただきますと、現在、小金井市では国分寺市、日野市、小金井市の 3 市で浅川清流

環境組合をつくり、新しい焼却施設の建設が進められているところでございます。下の欄にスケジュールが載っておりますが、現在、環境影響調査ですとか、事業者の選定を作業しております、順調に進みますと平成32年度に施設の稼働を予定しているということです。ふじみ衛生組合が受け入れるとしますと、平成29年度から31年度までの3年間でございます。

続きまして、1ページ開けていただきます。多摩地域ごみ処理広域支援ブロックというブロックが書いてございます。多摩地域ですけれども、全体が3つのブロックに分かれております。第1ブロック、第2ブロック、第3ブロックとございまして、原則このブロックの中で支援をしていくということになっております。小金井市は、この表を見ていただきますと第2ブロックにございます。この第2ブロックで相互支援をするということになります。ふじみ衛生組合も同じ第2ブロックということで、今回要請があったものでございます。

なお、この第2ブロックで焼却施設を持っている自治体を申し上げます。武蔵野市、東村山市、国分寺市、ふじみ衛生組合、柳泉園組合、多摩川衛生組合。この6つの自治体等が焼却施設を持っておりますので、小金井市のごみはこの施設で今後支援をしていくことになるものでございます。

その次のページが現在までの小金井市の広域支援の状況ということで、平成19年3月に炉が止まってから現在までの支援体制が書いてございます。以前につきましては、緊急避難的に第2ブロック以外のブロックでも広域支援をしていたところでございますけれども、新しく平成32年度から焼却施設ができるという将来計画が整ったことから、平成29年度以降は原則に立ち返って第2ブロックでやっというものでございます。

34ページを見ていただきますと、平成28年度の支援団体が書いてございます。昭島市が2,000トン、国分寺市が3,600トン、西多摩衛生組合が2,000トン、多摩川衛生組合が6,000トン、合計1万3,600トンでございまして、平成29年度以降もこの1万3,600トン程度が第2ブロックで支援をしていかなければいけない量と想定しているところでございます。

このうち、国分寺市の3,600トン、それから4番、多摩川衛生組合の6,000トンは、同じ第2ブロックでございまして、引き続き、国分寺市及び多摩川衛生組合にお願いすると聞いております。従いまして、残りの昭島市の2,000トン、そして西多摩衛生組合の2,000トン、合計4,000トンを他の自治体で広域支援をするということになると思います。従いまして今現在、小金井市は各自治体に依頼をしているところですが、最大限を見積もっても4,000トン以下の支援になるということでございます。ということで、支援量は最大年間4,000トンを押さえていただければと思います。

続きまして、35、36ページが実施計画でございます。36ページですが、年間の焼却計画量でございますが、可燃ごみが6万9,900トン、可燃性粗大ごみが1,200トン、それからリサイクルセンターから出る残さが6,200トンで、7万7,300トンという焼却量を年間の焼却量と計画いたしました。それに基づき、施設規模は1日288トンという施設規模になったものでございます。

それから計画ごみ質ですが、ごみの中には生ごみのように燃えにくいごみ、これが低質ごみになり、プラスチックのように非常にカロリーがあって燃えやすいごみ、これが高質ごみでございます。基準ごみはそうしたものが混ざったものでございまして、それぞれ熱量がそちらに記入されております。

それからその下の単位体積重量とは、ごみ1立方メートル当たりどのぐらいの重さになるかということで、200キロという重量を予定してつくられたもので、この体積重量に基づきごみピットの大きさを決めております。

それからその下が組成でございます。これは省略をさせていただきます。

実際に37ページが平成24年度から27年度までの三鷹市、調布市、小金井市の可燃ごみの組成でございます。隣同士にあることから大きく違った組成ではございません。三鷹市、調布市、小金井市、ほぼ同様な可燃ごみの組成となっております。小金井市と三鷹市、調布市の今の収集方法の違いですが、三鷹市、調布市は、ゴム製品、皮製品は可燃ごみで収集していますが、小金井市は、ゴム製品、皮製品は不燃ごみで集めております。そこが唯一の違いでございます。そのほかは今のところ小金井市と三鷹市、調布市は同じでございます。

続きまして、38ページをご覧いただきたいと思っております。ふじみ衛生組合の焼却施設、クリーンプラザふじみの平成25年度から27年度のごみの搬入量でございます。搬入量イコールほぼ焼却量となるものでございます。平成25年度が6万8,709トン、26年度が6万9,881トン、27年度が6万9,260トンで、ここ3年間、約7万トン弱で推移しております。一方、計画では先ほど申し上げましたとおり、7万7,300トンですので、7,000トン以上の余力があることが読み取れると考えております。

続きまして、搬入車両の関係でございます。搬入車両ですが、1月の三が日以降が一番多いのはここ数年、同じような傾向でございます。これは年末から年始にかけ、ごみの収集を行っていないために1週間分、2回分のごみが一度に入ってくるため、1月4日、5日がここ数年、収集としては多くなっており、その台数を1時間ごとにまとめましたものがその下の付表でございます。基本的には朝8時半から夕方5時までとなっておりますので、その時間帯に集中して搬入しております。

ただ、三鷹駅前は、夜間収集を行っていますので、火曜日、金曜日は、0時から4時ぐらいの深夜の時間帯にも数台ですが焼却場に搬入されています。

その次の39ページは、この施設をつくるに当たりまして渋滞が起きるかどうかにシミュレーションしたものです。A B Cの3地点とありますが、それは裏を見ていただきますと、各地点が書いてございます。A B C地点は、搬入道路、外周道路のそれぞれの地点でございます。それぞれの地点に、1時間当たり、または1分間当たり何台車両が通過するかというものでございます。

また39ページに戻っていただき、最大で比較したほうがいいと思いますので、1時間当たりA地点では136台、B地点は95台、C地点では61台通過するであろうということでございます。これが当時予測した数字でございます。実際この台数であれば車間距離が十分とれますので、渋滞の可能性はないということでございます。C地点がちょうど可燃ごみを収集してプラットホームに入ってくる地点ですので、このC地点が一番ポイントになるわけですが、C地点の最大61台に対し、38ページに戻って実績を見ていただきますと、1月4日でピークが57台、11時から12時にかけて57台。1月5日ですと、9時から10時にかけて56台ということで、ほぼ事前に行いましたシミュレーションどおりの搬入台数となっており、今時点では搬入車両に伴います渋滞は一切発生していないという状況でございます。

続きまして、計量器の能力ですが、計量器は1台40秒で計量が可能でございます。それが2台ございますので、1時間当たり180台の計量が可能でございます。これも最大61台入ったとしても十分能力的には問題がないので、計量器のところで渋滞が発生することはないと想定されるわけでございます。

またダンピング能力ですが、ふじみ衛生組合にはごみの投入扉が5台あります。1台ごみを下ろすのに2分30秒と想定されますので、2分30秒ですと1時間当たり、投入扉1台について24台ごみを下ろすことができます。それが5台分ございますので、1時間120台ごみを下ろすことができるという計算になりまして、これも最大1時間61台入ってきても、プラットホームの中でも渋滞は発生しないと想定されます。

その1分当たりに直したものがその下にありますので、参考までにつけさせていただきます。

実際に小金井市のごみが入ってきたらどうなるのかでございますけれども、先ほど申し上げましたとおり最大4,000トンになるわけですが、焼却炉の能力からしますと、計画で7万7,300トンのところ、現状7万トンを切っている状況ですから、そこに4,000トン入ってきたとしても、焼却能力は全く問題がないと考えられます。

また収集車両の渋滞の関係ですけれども、小金井市のごみを4,000トンといたしまして、搬入日数は週4日でございますので50週としますと200日、搬入日数がございます。4,000トンを200日で割っていただきますと1日20トンということになります。小金井市の収集車両は3トン車ですので、3トンは積めないにしても2トンは積めると考えておりますので、1日20トンといたしますと、1台当たり2トンで割っていただきますと1日10台搬入車両が来るという計算になります。ということでございますので、10台が1時間に集中するということは考えにくくて、普通は午前の収集、午後の収集とありますので、重なったとして5台前後ということになります。ですので、現在のピークの57台、数台合わせましても想定していた61台以内には収まっていますので、仮に小金井市のごみ搬入車両がふじみに来たとしても交通渋滞等は発生しないと考えているところでございます。

以上、現状とそれから小金井市が来たときのシミュレーションの結果についてご報告をさせていただきました。皆様からアドバイスがあればよろしくお願いたします。

委員長 : ありがとうございます。

ただいま説明がありましたように、大分込み入った話を早口で説明されるとよく分からないかと思えますけれども、重要な問題ですね。4,000トン来たらどうするかと。4,000トンじゃなくて少なくしろとかいろいろ意見があるかと思いますが、皆様のご意見をお伺いしたいということです。いかがでしょうか。

事務局が言われるとおり、4,000トン来て、1日に10台、午前、午後にするると5台ずつ分ぐらい来るようなイメージですけどね。余力からするとそう無理な話ではないということですね。どうぞ、D委員。

D委員 : 地元協議会に大変厳しいお題をいただきまして。前回と次回25日で結論を出さなければいけないのですが、いろいろなデータをもとに考えていかなければいけないと思っております。あと、私個人の考え方としては、もしクリーンプラザふじみが機能停止に陥ったらどうする。

それは小金井市と同じ立場になると思います。ですから受け入れられるものは受け入れる。もちろん委員の皆様のご理解があつてのことですが、理解が得られればそのような方向に持っていきたいなと思っております。

委員長、考え方として参考になるご意見がありましたら伺いたいと思っております。よろしくお願いたします。

委員長 : ほかの方のご意見は。いろいろと感想でもいいのですけれども、最後に結論を言うと非常にぎくしゃくしますから、感想でもちょっと雑感でも何かこの辺が不安だとかという話でもいいと思えますが、いかがですか。

E 委員 : 会長がいいと言うのに副会長が余計なこと言うと。率直に申し上げまして、事務局が説明の中で一言だけ触れられましたけれども、ここの専門委員会のテーマではないというので、専門委員会は会長の発言のように、何かアドバイスがあればお話を伺わせていただきたいということだと思います。能力として問題ないというのは、それはもうデータが示すとおり。しかし、地元住民の感情は有害廃棄物の総量が増えるじゃないかとか、地元の人たちがそういう言い分を言い尽くして、まあしょうがないかというふうに行くしかないのかなと思っていまして、地元の人たちがどうかというのは、地元協議会の委員が代表して、その責任を担っているいろいろな議論をするという次の地元協議会の会議になりたいと思っていますので、その感想だけ申し上げます。

委員長 : むしろほかの方のご意見を聞いたほうがいいですね。B 委員、どうですか。

B 委員 : 皆さん、自分のところで自分のものという原則はある中、お互いに困ったときは助け合うという前提になると思うのですが、それは近くに住んでいる方の感情としては、何で増えるということに対して抵抗があるのは当然なのかなと思います。

委員長 : これだけしっかりした焼却炉でしっかりした管理をしていると、3年間、年間に4,000トン入れるというのはそれほど心配要らないのではないかというのが私の率直な意見です。それで、こういう管理システムをしっかりと持続させていますので、よそのごみはよく知らないから疑心暗鬼になったりというのはありますけれども、家庭から出るごみが中心のごみですから、それほど心配は要らないかと思います。

ここで経験されたように、意外と実際に水銀をリアルタイムでモニターしていると、たまに出るという問題を皆さんも分かっていますから、そういう頻度が増えるのではないかとか、いろいろな懸念があるのではないかと思うのですが、そういうところもしっかり管理しながら、3年間やりましょうと。3年って限定されているからまだいいのです。

これがもう合併したかのように持続して、ずっと来ると言われると、いろいろ考えるのではないかと思いますけれども、そういう意味では私は慎重にいけば受け入れていいんじゃないかという。受け入れた後でいろいろな課題を的確にちゃんと、隠すのではなくて検出して解決する。どうもやっぱりよろしくないようだとということになれば断れるという条件で受ければいいと思います。

ふじみ衛生組合は地元協議会もつくられて、報告もきちんとしていて、しっかり透明化されていますから、そういう意味では非常に安心できるという気がします。

という意見ですが、G 委員、ご意見を。

G 委員 : この種のことは大変難しい問題で、助け合うということは助け合いをしていかないとお互いさまとは言い過ぎですけども、そういうことはあると思います。

ただ、最近ちょっと前のはやり言葉ですけども、想定外というのです。想定外というのはやっぱり普通想定外です。処理能力というのは、2つ炉がありますが、1つがずっと動かないとか、あるいはそれなりのことがありますから、シミュレーションは随分しているので大変言い訳ですけども、このぐらい来たら危ないかなということを事前にやっておくと参考になって、それなりに小金井市の皆さんには申しわけないですけども、こういうときはだめですということはある程度了解を得ておくといいますか、お互いさまだと思いますけれども、そういうことはちょっとした工夫かなと思います。今までの想定外の事態の経験からして、そんな感じはします。

委員長 : ほかにご意見ないですか。どうぞ。

K 委員 : 余計な憶測をしてはいけないのですけれども、最近、地震だとか風水害だとか、突発的な異常現象が起きまして、それに対して三鷹でなくて、三鷹が稼働してもほかの地区や何かがやられてしまったとか、あるいは三鷹もやられて、それがいろいろな影響を及ぼすというシミュレーション、そういう場面を想定したのも必要なんじゃないかなと。現状では余力がありますから、能力的には問題はないのですけれども、気象現象が最近、非常に変化が多くて、それに伴ういろいろな現象が起きますので、対応策も考えておいた方がいいのではないかなという。これは余計なことかもしれませんが、私はそういう感想を持ちました。

委員長 : 当然、ふじみ衛生組合の余力の中で支援しますという構造でしょうから、こちらの余力がなくなったり、止まったらそれは受けられませんよというのは、そういう前提でしょう。ですからおっしゃるように、意外とこっちが地震でやられたりとかというのはありますから。想定外でしたっていうのがあり得ますよね。そういう時にはお断りというのは、当然そういう条件で受け入れるということですね。

ところが広域で組合をつくって1か所あると、やっぱりごみが来ますよね。ここが潰れてしまうとなるとなかなか大変なことになって。焼却施設が止まると、いかにこの焼却施設がすごい役割を果たしていたかが分かります。あの臭い生ごみがここにあふれてごらんない。1か月も溜まったら大変です。いかに大変な貴重な機能を果たしているということです。

私が行っているインドネシアのバンドンなんかまだ焼却炉がないのですが、最終処分場で山積みしていたごみが崩れてしまって、その下で働いているスカベンジャーという人たちが死んでしまったんです。それでその処分場にごみを入れられないと言ったら、町中にあふれてしまって、道路にみんな置くものですからこれはもう町中が臭くなりました。

もう非常事態宣言出してしまったりして。ですから生ごみをきちんと1日何百トンと処理できるということはいかに重要な機能かというのをつくづく感じます。

そういう意味ではいろいろなご意見があるでしょうけれども、ぜひ受けるほうで、問題点があればちゃんと検討できるような条件で受けられるといいのではないかという気はします。

L 委員 : 私もうちの市もかつては広域支援のお世話になったことがあるので、ここで三鷹さんと共同ではありますが、我々がお断りするということはできないと思います。受けるべきだと思うのです。だから、4,000トンということですが、それも可能ですけれども、多分少なければ少ないほどいいという意見も出ると思います。その時には4,000トンより3,000がいい、3,000より2,000トンがいいというような話になってきたときに、きちんとした理由付けができるようにしておかないと、私は4,000トンでもやむを得ないかなと思うのですが、広域支援をする焼却場は我々だけじゃないですから、じゃあ何でほかにやらないのかという話になる可能性があるので、そのときにはきちんとした理由が、できるようなことを用意しておく必要があると考えます。

委員長 : 多分東北、宮城県とか岩手県の災害廃棄物を受けられたりしているから、ああいう話が今後、巨大災害の時はどこでもあり得るという話になっていまして、ですからそれぞれの炉に少し余裕をとって、特に1つの県で幾つかは余力を持った災害廃棄物の受け入れ能力も持つような施設にしておこうとか、そういう計画もあって、ハードな施設づくりは比較的簡単ですが、住民感情は変なものがあると嫌だというのがあって、その壁をどう解消するような形をつくれればいいかというのは実はここで議論しているようなことは大きな課題になっているのです。やっぱり丁寧な維持管理と透明な維持管理をしていくというのが一番重要なことだろうと思うのです。そのぐらいのごみであれば受け入れても大丈夫だという思いを持てば、むしろ困った人を助けるということになりますので、必要なことではないかと思います。

専門委員会の皆さんの感想をお聞きして、組合でいろいろ判断される時に参考にしてくださいということで、貴重なご意見ありがとうございました。

次のテーマに移りたいと思いますが、その他になります。その他は次回の日程ですか、それともふじみまつりのご紹介ですか。

事務局 : ふじみまつりは11月20日に予定しておりますけれども、お時間のあるときに今日お配りしたチラシをご覧くださいということをお願いしたいと思います。

それから日程でございますが、現在、委員会の定期開催が年度に2回となっております。今日が今年度2回目の委員会でございますので、次

回は来年度ですが、少し先のことですが、4月20日（木）いかがでしょうか。

委員長 : 事務局から来年4月20日に次の専門委員会を開きたいというご提案です。まずは20日で決めておきたいと思います。よろしく願いいたします。

では、きょうの議論はこれにて終了させていただきます。
どうもありがとうございました。

—20：30散会—

(注) Paired t-test (13頁)

統計学における分析手法の一つ